四谷の千枚田だより
第38号

千枚田守る紫山子や笑み多し　豊橋市　小川善大
シシも来たサルも出てきた千枚田　町からヒトも　悪さ目につく　（舜）

全国棚田連絡協議会

第12回
全国棚田〔千枚田〕サミット　平成18年 10/6～7

●開催地/宮崎県日南市〔坂元棚田〕

テーマ　棚田・未来への継承　人の絆が棚田を創る

第1日目〔6日〕

午前　全国棚田(千枚田)連絡協議会理事会、同総会・首長等会議

午後　基調報告

① **都市部の棚田の報告**　鴨川市大山千枚田保存会　石田三示氏

東京から一番近い棚田。オーナー制度や各種トラスト、体験学習などのフィルドとして活用することにより、棚田の保全を通してその多面的機能を保護している。

② **地方の棚田の報告**

・高知県梼原町役場　下村千佳氏

第１回棚田サミット開催の地。棚田保全を提唱し、地域でその活動を広げる中、行政もその支援を行っている。

・熊本県山都町菅地域振興会　渡邊正弘氏

過疎化が進み、荒廃していく農村風景と集落機能を維持するため、オーナー制度を取り組んでいる。地域の将来像を描き「行政にお願いすること」「自分で行うこと」を整理し、活動を展開している。

・宮崎県日南市　坂元棚田れんげの里づくり推進協議会　古澤家光氏

地元集落で「れんげの里づくり」を発足させ棚田保全と棚田 PR を行い、地道な活動の輪が少しずつ広がり、オーナー制度等を通し、地域活性化にとりくんでいる。

③ **特別報告**

神奈川県横浜市　彫刻家　田辺光彰氏

熱帯地方の野生稲自生地保全を農学者と共に提唱し、世界遺産で唯一のルソン島の棚田から終着点である坂元棚田のことを報告。

パネルディスカッション　「棚田・未来への継承」

コーディネーター　早稲田大学名誉教授　棚田学会副会長　中島峰広氏

アシスタントコーディネーター　水俣市愛林館館長　自由飲酒党総裁　沢畑　亨　氏

パネラー　基調報告の諸氏

基調報告を踏まえ、「棚田・未来への継承」について討論された。

ぼくたち・わたしたちの坂元棚田

第2日目(7日)　事例発表　坂元棚田を舞台に行われました。

酒谷小学校(児童数４４名)は農業体験活動で「無農薬米作り」を実践しております。

５年生は、米作り体験の様子と坂元棚田の歴史を総合学習の時間に調べた棚田ができるまでのいろいろな苦労や、学校田の米作り活動などを劇風にアレンジして発表しました。

６年生は、棚田が作られた時や、棚田米ができるまでの苦労を地区の方たちから聞き、その苦労を知り、こうした先人の営みのおかげで酒谷の特産物である棚田米や、よもぎ団子などがあるのだと改めて気づきました。これらのことをニュース形式で発表しました。

酒谷どれみ音楽教室・jet」～音楽で作る人の輪　シングアウトキッズ(コーラスグループ)

子供たちが提案、棚田のそれぞれの思いをメッセージをオリジナル曲にのせて発表しました。

酒谷中学生(31 名)は棚田をよく勉強して素晴らしいガイドを勤めました。

棚田の明日を担う酒谷の子供たちの真剣な発表や、地元の暖かいもてなしに感動しました。

サミット参加者　延べ 1,450 名　来年は栃木県茂木町「入郷石畑の棚田」で開催(07.8.24～25)

サミットに参加して

四谷の千枚田から三十三名がサミットに出席、全国の棚田関係者が一堂に会し、棚田保全を責務とした情報・交流を図りました。

「中山間地域等直接支払制度」、「棚田地域等緊急保全対策事業」、「中山間ふるさと・水と土保全対策事業」、「景観文化財」などの各制度の成立、また、都市と山村と共生の手をつなぐ「棚田ネットワーク」の設立は毎年棚田サミットを開催し、全国的な棚田保全活動を展開していることで、国や関係機関、都市住民のご理解ご支援をいただいた成果です。全国一千に及ぶ棚田は経済効率重視の風潮や担い手の減少による荒廃地化が進んでいます。棚田は国土の保全、水源のかん養、良好な景観形成などの多面的機能の発揮など計り知れないものがあります。全国の棚田を有する市町村はサミットの成果に「おんぶにだっこ」だけでなく、自らが棚田連絡協議会の一員になり、中山間地域の維持活性化を共に図る仲間となり、日本の原風景、棚田保全の礎となることを願ってやみません。

皆んなの声

参加者の感想は、異口同音にサミットはすばらしい、全国の棚田の人たちと苦労話や楽しい話もでき、勉強になった。私たちも棚田を守る意欲がよりいっそう湧いてきた。来年も必ずサミットに行きます。

新体験交流ガイド

「みんなの奥三河」（シリーズ）

十月十三(土)、午前中は「やまびこの丘」でそばうち体験、巣箱作り、機織りと、それぞれ、希望種目にチャレンジ、満喫しました。午後は「鳳来寺山自然科学博物館」と「鳳来寺山参道散策」、夜は星空観察の予定でしたが、あいにくの曇り空でお星様を見ることはできませんでした。

十四日(日)、四谷の千枚田の「田吾作」の圃場で自らが田植した稲刈り、はざ架けを行い、お百姓さんの大変さ、お米の一粒の大切さが、身をもって知ることができました。

昼食は今泉良治さん(田吾作代表)の地取りのマツタケを田吾作が無農薬栽培した棚田の新米で女性陣がマツタケ飯を炊き上げ、その旨さ、食感に皆んなホッペタを落としてしまいました。

ボランティア

四谷の千枚田を支援

棚田ネットワーク、東京ボランティア・市民活動センターの協力でアストラゼネカ㈱は「高齢化する村を支援するプロジェクト」と題し、十一月一日(水)、社を休業日にし、全国四十ヶ所の棚田のある農村などを全従業員三千人の社員がお手伝いを実施します。

四谷の千枚田は七十名が訪れ、植樹や石崖の草取り、ふれあい広場等の環境整備が行われます。

十月九日、十五日には保存会、お助け隊が出役、草刈りや植栽の地ごしらえを行い、ボランティアの皆さんが怪我などないよう受け入れの準備をしました。

念仏踊り二十三番に

ランクされる

平成十七年度 美しいふるさと・国づくり推進事業 第五回「むらの伝統文化顕彰」において身平橋の念仏踊り「はねこみ」が伝統芸能編の部で二十三番目にランクされ、むらの伝統文化デタ－ブックに「受け継ぐ農山漁村の価値ある伝統文化」として掲載されました。

ゆるせくもない

九月二十日、千枚田で稲刈りをしとったら、ほんに三十分ばかの間に、軽トラに置いとったカメラを持ってちゃやぁがった。平成三年九月二十三日、(舜)の誕生日の日から十五年間、全国に先駆け、何とか棚田を残さにゃぁという信念から写真展を開いたり、「四谷の千枚田だより」を発行したりして、ふるさと千枚田をこれ以上、減らさんように一生懸命やってきたつもりだったが、ほぼ目的を達成、と、うかれた拍子に棚田と共に歩んできた魂の入ったカメラを持っていかれちゃった。ふんとに、**ゆるせくもない**、情けないことだった。(そいだもんで、今月は写真がないだぞん、わりぃのん・・)

人も心配してくれて、「千原田のコンコン様にお願いしたら」と教えてくれた。もし、でてきたら「油揚げ五枚差し上げます」と、お願いもしてみた。

発　行　平成十八年十月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
文　責　小山舜二